

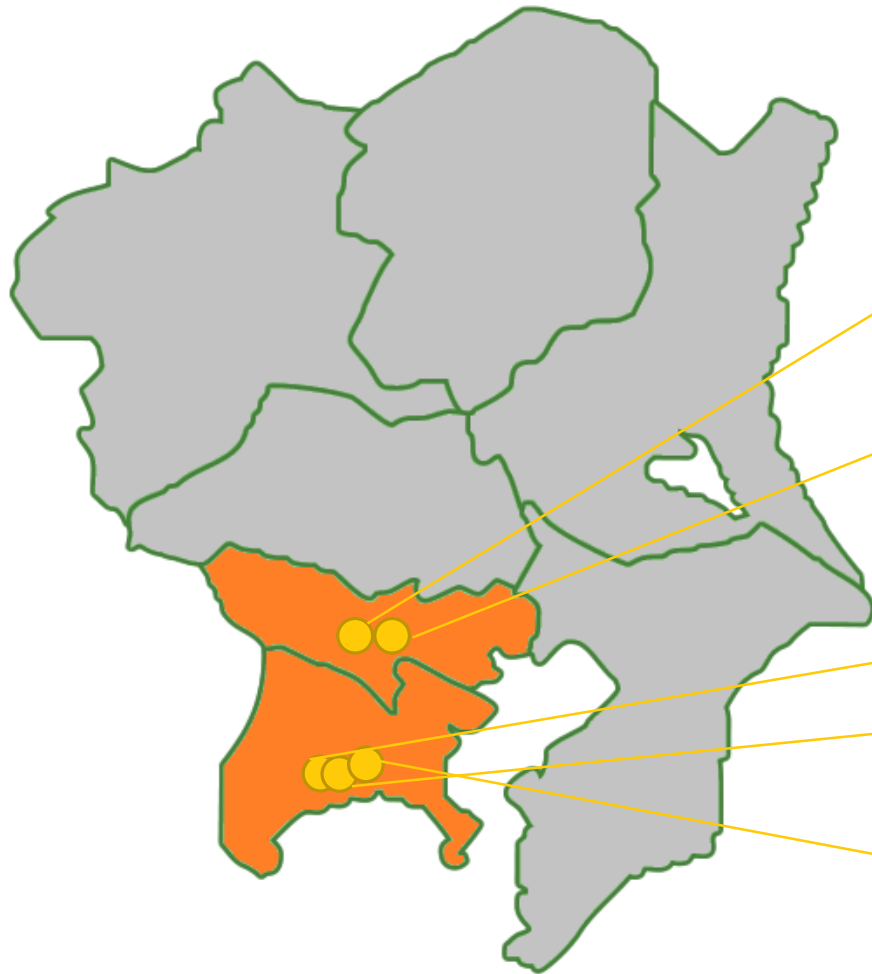
令和4年度 東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修

施設における事例報告②

事業継続のためのコロナウイルス感染症対策と コロナクラスター発生時の対応について

医療法人社団 佑樹会
介護老人保健施設 なごみの里

医療法人社団 佑樹会



東京都 昭島市

① 介護老人保健施設 なごみの里 (入所150床、通所55名)

東京都 府中市

② 介護老人保健施設 ふれあいの里 (入所180床、通所70名)

神奈川県 秦野市

③ 介護老人保健施設 めぐみの里 (入所148床、通所110名)

④ 介護老人保健施設 ひまわりの里 (入所100床、通所70名)

神奈川県 伊勢原市

⑤ 介護老人保健施設 あゆみの里 (入所100床、通所40名)

介護老人保健施設 なごみの里 概要



開設：平成16年4月1日

所在：東京都昭島市中神町1345番1

定員：入所150床、通所リハ55名

サービス：短期入所療養介護、訪問リハビリテーション

建物：鉄筋コンクリート造5階建て

入居フロア 2F:56床

3F:54床

4F:40床(認知専門棟)

通所リハ、機能訓練スペース 1F

2度のコロナクラスター発生

1度目のクラスター(第3波)

令和3年1月13日～3月1日(収束)

陽性者数:ご利用者様45名(2F:39名、4F:6名) 職員30名 計70名

2度目のクラスター(第7波 オミクロン株)

令和4年8月1日～9月13日(収束)

陽性者数:ご利用者様49名(3F:48名、2F:1名) 職員11名 計60名

1度目のクラスター（当時の状況）

東京都でも1日最大2,500人ほどの新規感染者が出ていた時期

昭島市内でも高齢者施設でのクラスター発生という話はまだ聞かれない時期

当初2Fで感染が発生・拡大し、2Fが落ち着いてきたところに4Fにも広がった。

1日最大20人の陽性者を確認する日もあった。（保健所が来設、のちにDMATを派遣）

感染を恐れ、出勤しない職員も・・・。

通所リハ、訪問リハは一時休業、通所リハに関わる介護・リハ職員をフロアの介護職員としてヘルプに回ってもらう。

通所リハは約1か月休業を余儀なくされた。売上としては約1,200万円減。

1度目のクラスター（地域とのつながり）

- ・あきしま地域福祉ネットワーク（医療介護事業所の任意所属団体）への協力依頼
 - あきしまネットを通じて市内の事業所へ当施設の状況を一斉連絡。
 - 困っていることや協力いただきたい事をメールで依頼。
 - あきしまネットがボランティアを募り、排泄物用の2重ゴミ袋を作成し届けてくれた。



1度目のクラスター（地域とのつながり）

当時の状況としては、コロナが発生した施設に対して、苦情・偏見・いやがらせのようなことが起きていた。

施設が閉鎖されている状況だからこそホームページを通じて状況を写真付きで発信。



施設の状況を細かく「見える化」することで、
地域との「つながり」を構築することができた。

1度目のクラスター（地域とのつながり）

あきしまネットのボランティアグループや地域の事業所・施設、元職員、ご利用者様のご家族や全く知らない事業所からも支援物資（感染対策品、飲み物、食べ物）やお見舞い、励ましのお言葉をたくさん頂いた。



1度目のクラスター後の対応

入所フロアでコロナクラスターが起きても、通所リハ等の営業が継続できるように。



事業継続のための感染対策

- ・通所リハと老健入所とで職員や利用者が交わらないように
 - サービス提供エリアの明確な区分け(入所と通所リハのご利用者様の交差を防ぐ)
 - 職員の更衣室、休憩スペースも通所リハ担当と老健入所担当で場所を分ける
 - リハスタッフも通所・入所担当を専属化して入所のリハビリはフロアで実施

1度目のクラスター後の対応

- ・通所リハと老健入所の職員や利用者が交わらないように



通所のご利用者様が入所のご利用者様や入所担当の職員のエリアに入らないように、入口に案内表示を設置。



通所担当の男性職員の更衣室を通所リハを担当するリハスタッフルーム内に設置。



1Fエレベーターホールと通所エリアもパーテーションを設置して物理的に区分けを実施。

1度目のクラスター後の対応

- ・衛生意識の強化

職員へ個人ごとのアルコール消毒ポンプとそれを入れるポーチを支給

- ・検査体制の強化

東京都が実施する、施設職員等に対する集中的検査(PCR)の実施

通所リハに関わる職員には、上記に加え東京都の集中的検査(抗原検査)も実施

- ・部長職の朝ミーティング

- ・職員の体調管理の一元化

職員の体調、職員同居家族の体調不良や感染状況など、看護部長のところで一元管理。

感染が疑われるような状況の場合出勤を見合わせ、医療機関の受診を打診。



1度目のクラスター後の対応

- ・法人内の他施設との連携強化

各施設でのコロナ発生状況、対策状況、最新のコロナ事情などの情報共有

- ・人員不足に対しての応援体制

令和4年1月に神奈川県伊勢原市の介護老人保健施設あゆみの里でコロナクラスター発生
なごみの里から職員2名(クラスター経験者)を派遣。他施設からも職員数名派遣。

クラスターを経験し、施設にコロナを持ち込まない対策を行ってきたが・・・

2度目のクラスター(当時の状況)

高齢者施設でのコロナ発生、クラスターもそれほど珍しくもない。

東京都でも1日最大40,000人ほどの新規感染者が出ていた時期。

令和4年8月1日 3Fでご利用者様8人の陽性者を確認。

個室隔離 → 陽性者エリアのゾーニング、その他基本的な初期対応を行う。

8月3日から職員にも陽性者が出始める。

8月9日に改めて3Fご利用者様全員に抗原検査を実施すると、18名陽性。

ただし、18名は全員無症状。

⇒このような状況でも通所リハの営業は継続

2度目のクラスター発生中の対応（交差感染対策）

流行していたオミクロン株は感染力が非常に強かった。



他のフロアに感染を拡大させたくない。



職員の交差感染対策の強化

感染が発生しているフロアの職員は基本的に
出勤から退勤までそのフロアから出ない、別のフロアへ行かない。

別のフロア職員と会わないようにする。

2度目のクラスター発生中の対応(交差感染対策)

職員の交差感染対策強化



感染フロアの職員は、通常の職員出入口を使わず、非常階段を上がって直接フロアへ入退出を行った。



着用したユニホームも専用のBOXを用意し入れる。業者の回収日に合わせて、事務部門の職員が運搬。



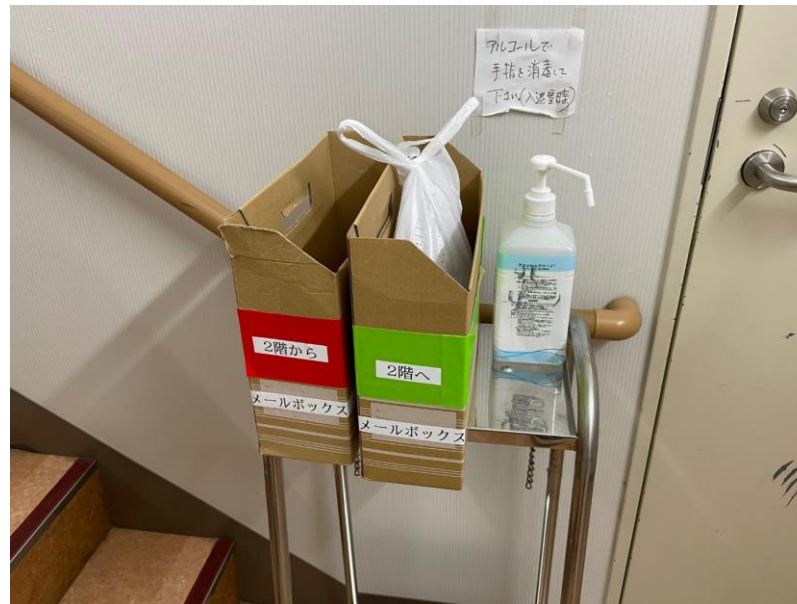
臨時の下駄箱が必要になったので、ホームセンターで板とブロックを買って簡易な下駄箱を用意した。

2度目のクラスター発生中の対応(交差感染対策)

職員の交差感染対策強化



書類、物品の受け渡しは、メールボックスを作り直接会わないように対応。普段職員がフロアへ入る扉の前に設置。



緑のBOXには2Fへ渡すクリーンなもの。赤のBOXは2Fから他部署へ渡すものと色分けして、注意喚起をした。



扉の先はステーションでクリーンゾーンではあるが、極力感染フロアの職員との接触を避けるため実施した。

2度目のクラスター発生中の対応（勤務体制確保）

職員（勤務体制）の確保

2度目のクラスター時は、1度目のクラスターと違い通所リハのサービスは継続中。

通所リハに携わる介護職員・リハ職員からの大胆な応援は望めない。



- ・別の入所フロアからの職員ヘルプ
- ・私生活中にコロナ感染し、療養期間を終えて職場復帰した他部署職員の投入

最後に

- 2度のクラスターを経験し、施設にコロナウイルスを入れないということは難しい。
- 施設にコロナを入れない為の感染対策は実施しながら、感染者が出ても影響を最小限に抑えつつ、サービス提供を継続するための方法、手段を考え対策を実施することが大切。
- 自施設だけでは対処しきれないことは多い。そんな時はグループ施設や地域に協力を求める。
- 東京都が実施している高齢者施設へのコロナ対策の取組を活用する。

当施設の事例が皆様の施設にとって少しでも参考になれば幸いです。